

報道関係者各位

2026年5月27日
株式会社 GOOD PLACE
(旧株式会社コスモスマア)

より良い場づくりに取り組む建築会社 GOOD PLACE が サステナビリティ広報誌『サスマア』 vol.18 を発行

特集記事：築50年のオフィスビルに付加価値を創出した「光栄ビル」リノベーションPJ

建物のリノベーション、オフィス構築、バックオフィス業務のアウトソーシングを通じて「より良い場」を創造する建築会社の株式会社 GOOD PLACE（旧株式会社コスモスマア、本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：宮 信司）は、サステナビリティ広報誌『サスマア』の vol.18 を発行し、2026年5月に当社コーポレートサイトで公開いたしました。

『サスマア』は、事業活動や社内活動のなかでおこなってきたサステナビリティの取り組みを一冊にまとめた年刊誌です。CSR 活動から CSV 活動、そしてサステナビリティ推進へと、時代の変化と共に社会課題への向き合い方は変わっています。顕在化する環境問題や、私たちを取り巻く状況の変化を踏まえ、当社はこれからもサステナビリティ推進の重要性について発信してまいります。



『サスマア』 vol.18 表紙

- ・『サスマア』 vol.18 : <https://www.goodplace.co.jp/sustainability/pdf/susmore2026.pdf>
- ・GOOD PLACE サステナビリティページ : <https://www.goodplace.co.jp/sustainability/>

『サスマア』 vol.18 の抜粋

■ 2024 年度の全事業の CO2 排出量を可視化、東京本社の SCOPE2 は 20%程度減少

当社は 2022 年より、自社事業のサステナビリティ向上を目指し、サプライチェーン全体の CO2 排出量を算定する「MORE SUSTAINABLE PROJECT」を実施しています。2024 年度は、東京本社の SCOPE2（電力使用による CO2 排出量）が 20%程度減少しました。これは、リモートワークなどの自由な働き方を推進し、東京本社のフロア数を 1 フロア減らしたことによるものです。一方、全事業における CO2 総排出量は 2023 年度の 13,513t から 20,039t へと増加しました。主な要因は大規模な新築工事の請負が増えたことによるものです。リノベーション事業のプロジェクトも増加していますが、同規模の売上で比較するとリノベーション工事の CO2 排出量は新築工事の約 25%にとどまります。今後もリノベーション事業の推進を通じて、トータルでの CO2 排出量の削減を目指してまいります。

■ 「e c o 検定」資格保有率は 92.7%、255 名が保有

当社では、従業員一人ひとりが環境への配慮を意識しながら事業を推進していくことが必要不可欠だと考え、東京商工会議所が主催する環境に関する検定試験「e c o 検定」の取得を推奨しています。試験対策として、サステナビリティ推進室メンバーが受験対象者に模試を実施し、合格まで手厚くサポートを行いました。2025 年度は 255 名が eco 検定の資格を保有しており、全従業員での e c o 検定資格保有率は 92.7%となっています。

■ グリーンビルディング認証セミナーを全社向けにオンライン開催

2025 年 5 月 29 日、サステナビリティに関連する国際認証の取得コンサルティングを行う株式会社ヴォンエルフのシニアアドバイザーである似内志朗氏を講師に招き、「グリーンビルディング認証」のオンラインセミナーを従業員向けに実施しました。建築分野に携わる従業員約 180 名のうち、43 名が参加し、GOOD PLACE の事業特性や理念に合った認証の選び方と、今後の環境経営の方向性について考える機会となりました。

■ 「SMILE CUP」2025 年は過去最多の 16 チームが参加、能登半島地震の復興支援に寄付

建設会社、不動産会社、住設機器メーカーなど都市や空間に関わる企業や団体が参加するチャリティフットサルイベント「SMILE CUP」を 2025 年 7 月と 11 月に開催しました。7 月 13 日に開催した Vol.15 には 10 チーム、11 月 30 日の Vol.16 では過去最多となる 16 チームが参加。各回で集められた支援金は、日本サッカー協会（JFA）が実施する「能登半島地震サッカーファミリー復興支援金」に寄付しました。寄付金は、能登半島地震で被災したサッカーグラウンドやクラブハウスの改修・新設支援や、サッカー教室・フェスティバルの開催などに使われます。

■ CASE STUDY：光栄ビル リノベーションプロジェクト

サスマア vol.18 では、築 50 年を契機に共用部のフルリノベーションを実施した「光栄ビル」を紹介。GOOD PLACE が設計・施工・PM を手掛け、外観、エントランス、トイレ、廊下などを改修しました。「入居者同士のつながり」「環境への配慮」「地域との連携」といった観点を盛り込んだバリューアッププランをもとに、1 階ロビーや共用ラウンジの新設、エントランスから外した大理石を再活用したフロアサインの制作などを実施しました。フロアサインは、職人を招いてオーナー・テナント・GOOD PLACE の三者で金継ぎワークショップを光栄ビル内で開催。ものづくりを通して交流を深めました。

リノベーションのコンセプトは Horizontal（ホリゾンタル）。“水平”を意味する言葉で、入居者全員が気持ちよく過ごせること、同じ建物に入る企業同士が、横のつながりを持つことをこの場所で叶えたいと考えました。光栄ビルのリノベーションは、入居者の働く環境をアップデートしただけでなく、“人と人との関係性を育む場所”という付加価値をも生み出しました。

■ GOOD PLACE が携わった 3 つのプロジェクト事例を紹介

- ・関電不動産京都ビル リノベーション：昭和後期の建築ならではの高級感を継承し、庭園で新たな「つながり」を創出事例ページ：<https://www.goodplace.co.jp/works/works284/>
- ・リクルートスタッフィング新宿オフィス：仲間の顔が見えて安心できる“居場所”「帰りたくなる、温かなオフィス」

事例ページ：<https://www.goodplace.co.jp/works/works301/>

- ・**渋谷グローリアビル リノベーション**：昭和レトロな要素を生かしながら渋谷の街の新旧の共存を体現する空間に再生事例ページ：<https://www.goodplace.co.jp/works/works295/>

GOOD PLACE のサステナビリティ推進室

GOOD PLACE では、2008 年から社会課題解決の取り組みをスタートし、2011 年には「CSR 推進室」を発足。震災復興や地域振興などの支援活動を積極的におこなってきました。近年はさらに SDGs の観点からも社会課題を解決する仕組みづくりを目指し、年刊誌『サスマア』の制作やメルマガでの情報発信、外部知見習得会の開催や全従業員への「eco 検定」合格支援を実施しています。2023 年からは「サステナビリティ推進室」と名称を改めて、5 か年計画である CSV ビジョンを策定。CO2 排出量を可視化する「MORE SUSTAINABLE PROJECT」を主導するなど、GOOD PLACE をサステナブルな先進企業に導けるようさらなる活動の強化を進めています。

これまでの『サスマア』一覧：<https://www.goodplace.co.jp/sustainability/>

株式会社 GOOD PLACE について

GOOD PLACE (旧コスモスマ URL：<https://www.goodplace.co.jp/>) は、リクルートグループのリフォーム事業を担う会社として 1990 年に設立。その後、親会社のコスモイニシア (東証スタンダード.8844) と共に 2013 年に大和ハウス工業 (東証プライム.1925) のグループ企業となりました。「Make a GOOD PLACE」をブランドコンセプトに、オフィス事業やバックオフィス業務のアウトソーシング事業、リノベーションをはじめとする建築事業を展開し、働く場や集う場などさまざまな領域において、より良い場づくりを目指しています。2024 年 1 月に株式会社コスモスマから株式会社 GOOD PLACE へ商号を変更いたしました。

本リリースに関するお問い合わせ

株式会社 GOOD PLACE コーポレート統括部ブランドマネジメント課 担当：吉町・三倉

E-mail：pr@gp.cigr.co.jp